

WEEKLY REPORT

国際ロータリー第2600地区 上田ロータリークラブ
(創立1959年11月12日)

2022-2023年度 国際ロータリーテーマ

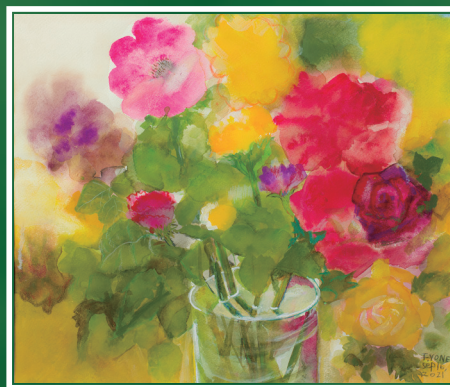
イマジン ロータリー

R.I.会長 ジェニファーE・ジョーンズ

国際ロータリー第2600地区 ガバナー 上沢 広光

2022-23年度 上田ロータリークラブ

- 会長 矢島 康夫 ●副会長 小幡 晃大・三井 英和
- 幹事 櫻井 雅文 ●会報委員長 酒巻 弘



第2899回例会 (令和5年2月27日)



ホームページQR

[地区事務所より委嘱状]

地区事務所より2023-2024年度
地区諮問委員会委員の委嘱状

◆島田 甲子雄さん



[会長挨拶]

矢島康夫 会長

皆様こんにちは。

「札幌時計台」、「高知のはりまや橋」
「長崎オランダ坂」の3つを『日本3大
がっかり名所』と言われています。



札幌市時計台の正式名は、「旧札幌農学校演武場」。明治11年10月16日に竣工した時計台は国の重要文化財です。なぜ、がっかりかといえば周囲が都市化して大きなビルに囲まれていて、思ったより小さいという理由からです。開拓時代に創建した建物が現存しているという貴重な例で、塔部分は明治14年に開拓長官であった黒田清隆のもとに増築されています。塔部分の増築の際に設置されたハワード製の四面時計が現役で時を告げるなど、実際には「思ったより小さい」以外にがっかりの要素は見当たりません。

「高知のはりまや橋」は藩政時代に、高知城下で堀で隔てられていた豪商の播磨屋(はりまや)と、櫃屋(ひつや)がお互いの往来のために架けた橋がはりまや橋です。この橋が有名になったのは、昭和34年、ベギー葉山が歌った歌謡曲『南国土佐を後にして』の大ヒットです。

なんでがっかりかといえば「以前のように堀にかかっていない」から。昭和3年、土佐電鉄棧橋線延伸開業に伴う高知市の街路整備で目抜き通り脇の橋に環境が激変。さらに高度成長期に堀が埋め立てられてしまったからです。

「長崎オランダ坂」は安政6年(1859年)、箱館(函館)、神奈川(横浜)とともに開港された長崎。出島から開放された外国人たちには、居留地が定められ、港に面した海岸通り

には商社、銀行、領事館、ホテルが建てられました。

海を見下ろす高台の東山手地区には、当初は教会や領事館が、今は学校や住宅などが建てられ、学園の丘とも呼ばれる景観です。

外国人たちは輸送手段に馬車などを使うため、ぬかるみを嫌い、東山手地区の坂道に舗装することを要求します。天草から石工が呼ばれて石畳となった坂道がオランダ坂です。

がっかりの理由は、洋館が立ち並ぶわけでもなく「普通に生活道路として使われるただの坂道」だからです。

上田城も何とか櫓門ができて少しマシになりましたが、日本3大がっかり城と言われたいよう、櫓の復元を頑張らねばと思います。

[会員卓話]

保科茂久さん

それでは、自分が従事しております
工業塗装をテーマにお話しさせていただきます。



弊社は私の父親が、1965年に工作機械の金属塗装業として創業いたしました。当初は人手が足らず、私も幼い頃から作業現場に連れて行かれており、ペンキとシンナーの香り漂う環境で育ちました。

シンナーと言いますと、昭和40年代前半頃、シンナーの蒸気を吸引する、「シンナー遊び」が流行し始めました。「シンナー遊び」そのものを俗に「アンパン」、関西地方では「チャンソリ」とも呼んだそうです。自分の身近にあるシンナーでしたが、私は全く興味がわきませんでした。そんな「シンナー遊び」が社会問題化したことを受けて年々、規制が厳しくなり塗料販売店から一般の方が、簡単に品質の良いシンナーを購入できなくなったため、管理のゆるい小規模な工場の資材置場からシンナー盗んだりする者や、同業者かどうかは定かではありませんが、焼酎や、リポビタミンDの空きビンにシンナーを詰めて法外な値段で売りつけ、資金を稼ぐ輩もありました。

私も「あんちゃん、純トロだよ、どうだい?」と、幾度か声をかけられたのを記憶しています。ちなみに「純トロ」と

は、シンナーや接着剤などに含まれるトルエンのことで、有機溶剤の中でも中枢神経麻痺作用がとても強いそうです。

それでは、工業塗装ということで簡単な資料を用意しました。工業塗装とはいろいろな所で使われている塗装技術です。

世の中には、塗装されているものが多くあります。自動車、家電製品、調理器具、建物、自動販売機など。これらは、日常生活の中でよく目にします。さらには産業界の設備、交通機関、構造物、インフラ等。塗装は、様々な分野で社会を支える技術となっています。

塗装技術とその目的について、改めて、塗装技術とは何でしょう？「塗装」は、漢字で読んで字のごとく“塗って装う”と書きます。塗装は、「対象物に材料(塗料)を塗布して外観を整える」技術です。これは、塗装の定義とも言え、その目的は3つあります。

①見た目(美観・意匠性)

②素材の保護(防食・劣化防止)

③機能付加(耐熱性や潤滑性など)です。

屋外塗装と工場塗装について、塗装の対象は、微細な部品から強大な構造物まで幅広く存在します。しかし、その取扱いは、塗装対象によって、かなり異なります。塗装の作業分野で見た場合、大きく屋外塗装と工場塗装の2つに分かれます。

屋外塗装は、建物や構造物、道路の路面など、移動することのできない対象が主となります。現場対応のため、使える設備も限られます。一方、工場塗装は、製品・部品単位で扱われます。移動はもちろん、工場で生産設備を使いこなすことで大量生産が可能です。工場で行う塗装は、工業塗装の範疇に入ります。

工業とは、原材料を人の手や機械を使って加工し、生産物を造り上げる産業のことです。工業製品には、安定した品質、コストで効率よく生産することが求められます。これは、工業製品を扱う工業塗装についても同様です。工業塗装で生産設備を使う代表的な技術は、焼付塗装です。乾燥炉を使用することで塗料の乾燥を、自然乾燥するよりも早く仕上がることが可能です。工業塗装では、また水を使った前処理や、機械による搬送、ロボットによる塗料の吹き付け等、塗装対象に合わせ様々な設備システムを構築しています。

以上を踏まえると、

●「工業塗装とは、工業製品を扱う塗装」

●「工業塗装とは、工場で設備を使い、安定した品質で効率よく行う塗装」と説明できます。

◆東京タワーの塗装について

昭和33年に竣工した東京タワーですが、当時の大型構造物は現場施工が中心ゆえ塗装は組み立てながらの同時進行で、全ての塗装は現場で行われていました。しかし、東京タワーの塗装においては「絶対に鉄はサビさせてはいけない。」という創設者の思いから、鉄鋼素材はまず工場で下地処理後、サビ止め塗料による下塗り塗装を行い、乾燥後に現場に搬入され、現場塗装は組み立てながらの同時進行ではなく、組み立て後に下地処理を行い、再度下塗り塗装をしてから、中塗り上塗り、と、2回の仕上げ塗装を行いまし

た。このように綿密に防さび対策を行った塗装設計は、工業塗装の原点と言われています。そして完成後は、ほぼ5年に1度の周期で約1年かけて塗り替え工事が行われてきました。ここで塗り替え工事にかかせない足場についてですが、東京タワーは電波塔という性質上、電波に影響する金属製の足場は使えず木製の丸太で足場を組み作業をしたそうです。また、作業時間が東京タワーの営業時間が終了した深夜から明け方までということもあり、近隣への防音対策としても金属ではなく木製の丸太の方が適していたようです。近年においては、耐久性や軽さなどからFRP製のパイプも使用されているようです。

さて、塗り替えの工程ですが、まず劣化した塗膜の除去、サビ落としなどの下地作業をして、下塗り、中塗り、上塗り、と、3工程の塗装が行われますが、この作業は刷毛を使い、すべて人の手によって塗られています。どんなに熟練した腕前の職人であっても、高さ数百メートルでの作業、そして突然、風にあおられる環境のもと、作業中に塗料が飛散する確率は決してゼロではありません。(塗装職人にビートたけしさんの父親である北野菊次郎さんが携わっていた。)

鉄骨などで水平の箇所を確保できる塔の内側は、養生シートを掛けて防止できますが物理的に養生ができない塔の外側の作業では、塗料が飛散する確率が高い。この為、塗料が落下して建物や車に付着した塗料をすぐに拭き取るための地上部隊が配置されていて、この地上部隊は主に学生アルバイトで、自分も学生の頃、二週間ほど参加した事があり、シンナーとウエスを持って周辺をパトロールしました。

2019年に11回目の塗り替えが行われた際、初めて塗装仕様が変更されて、塗り替え工事の周期が5年から7年に延びました。構造物の塗装が格段に向上したのは、東京タワー完成から30年後に完成した瀬戸大橋でした。その塗装仕様は重防食塗装といって、簡潔に述べますと防食塗料と呼ばれる非常に厳しい環境から物を保護する塗料を、数回の工程をかけて200~500ミクロンの塗膜を付けることです。新設工事の場合、東京タワーでの工場塗装は、まだ一部にすぎませんでしたが瀬戸大橋に始まる本州四国連絡橋においては工場塗装がほとんどで、現場での塗装は溶接部分などの継手部だけになりました。高い防食性と美観を維持するために、重防食塗装は年々仕様が向上し、瀬戸大橋の10年後に完成した明石海峡大橋においては、東京タワーの塗り替え周期が5年であったのに対し、20年になりました。さらに2011年に完成した東京スカイツリーの塗り替え周期は25年と言われています。

このように塗装技術は、耐久性と美観の保持において飛躍的に発展してきました。その反面、塗料を取り巻く環境は年々厳しさが増しており、健康に有害な化学物質の規制強化、地球温暖化対策としてのVOC削減などが求められています。VOCとは揮発性有機溶剤のことで、VOCの中には当然、塗料、シンナーも含まれ、塗装することによって大気中に排出されます。

先日、SDGs(持続可能な開発目標)についてのお話を伺う機会がありました。VOCを削減することで、SDGs目標の3「すべての人に健康と福祉を」とSDGs目標の12

「つくる責任、つかう責任」の2つの目標達成に貢献できるそうです。

塗料を扱う者として、環境対応をより意識してこれからの塗装のあり方を考えていかなければと再認識しました。

という事で、まとまりのない話になりましたが、私の卓話を締めくくりたいと思います。ご静聴、誠にありがとございました。

『ロータリーの友』2月号紹介

雑誌委員会 田邊利江子 委員長

2月は平和構築と紛争予防月間

2月23日はロータリー創立記念日でした。

1905年2月23日、ロータリーの創始者ポール・ハリスが、友人3人と初めて会合を開いた日です。ロータリークラブは、118歳のお誕生日を迎えております。



本文横書き 8 ページから

◆特集 平和構築と紛争予防月間

A F P通信フォトグラファー 千葉康由さん

報道写真家として活躍をされています。少年が叫んでいる写真「抗議する少年」は、千葉氏が撮影した写真で、2020年「世界報道写真コンテスト」で受賞をしています。

千葉氏は武蔵野美術大学で映像学科を専攻され、もともととは動画に興味がありましたが、オランダ人の写真家の展覧会を見に行った時に、初めて写真が動いているように見えたことをきっかけに、動画より写真に興味に移り、大学3年生の時に、日本の環境NGOの主催でネパールに行き、そこで撮影した写真を帰国後に現像して見た時に、千葉氏はこう思ったそうです。「**写真には、撮影時に感じた自分の内面が記録されている。**」と。この感覚は今も変わっていないそうです。

大学卒業後は、朝日新聞社で写真記者として活躍をされ、現在は、世界で一番古いニュース通信社、パリに拠点を置く、AFP通信社で報道写真家として活躍をされています。通信社というのは、新聞やテレビなどの発信媒体は持っておりませんので、通信社が取材した記事や撮影した写真・映像は、世界中にいるクライアントさんに、世界中のメディアや国際機関などへ配信され、良い素材は複数のメディアで使われているということです。

昨年2月にロシア軍がウクライナに侵攻してから、今月2月24日で一年となりました。このウクライナに、千葉氏も取材に行っております。危険な地域になりますので、現地では、自分の身の安全を確保できるようにならなければなりません。非常事態に直面した時に、冷静に対処できるように、テロや誘拐に遭遇した際のシュミレーションや、ケガをした際の救急処置の知識、ネット上の脅威を予防するデジタルセキュリティーなどの講習(HEAT)を受けてから取材をおこなっておりますので、少し気持ちに余裕を持って取材に挑むことができたそうです。とはいえ前線です。より安全性を高めるために、専門のセキュリティーアドバイザー、元フランス軍の兵士の方に同行をしても

らっています。

どれだけ安全対策をとったとしても「運」というものがございいます。いつでも危険とは隣り合わせです。取材中にケガをした経験から、無理をして良い写真を撮ろうとしないこと、諦める勇気を持てるようになったそうです。

写真の限界・道徳的ジレンマについて

写真というのは、その場の瞬間が記録されたもので、その1枚からは、いろんなことを想像することができます。それが「写真の持つ力」になります。ただ、実際にその場で起こっていること全てを見せているわけではないという点が「写真の限界」になります。

1994年3月「ニューヨークタイムズ」に掲載された写真「ハゲワシと少女」。この写真は、ケビン・カーターが内戦が続くスーダンで撮影したもので「うずくまる少女をハゲワシが狙っている」という写真です。1994年度ピューリッツァー賞企画写真部門賞を受賞しています。あまりにもインパクトが強い写真でしたので「彼はなぜ助けなかったのか」と世界中から非難が寄せられたそうです。その非難を苦にしておか？真相は分かっていますが、その年、1994年7月にそのカメラマンは自殺をしましております。この死について「カーターは、なぜ死ななければならなかったのか？」全世界に波紋を広げたということです。

「報道か、人命救助か」「撮るのか、助けるのか？」

今もよく報道写真のジレンマとして話題になるそうです。

千葉氏の言葉より

「このようなジレンマや罪悪感はずっと感じています。人々が苦しむような状況にあって、自分ができるとは写真撮るだけ。援助団体のように何かを与えたり、助けたりすることはできません。しかし「ハゲワシと少女」の写真のように、世の中の関心を引き、支援につなげ、状況を改善していくことは、メディアの一つの役割だと思います。そのような写真を撮ることが、自分に課せられた責務の一つです。そういえば2020年に世界報道写真大賞をいただいた写真の、スーダンで抗議の声を上げる少年は、その後、オランダの高校から奨学金を与えられて、留学先で国際政治やリーダーシップ論を学んでいます。」

「報道写真」はひとつの真実を伝える大切な情報のツールですが、その瞬間だけをとらえてしまうのではなく、前後にはストーリーがあるということ。また、そのストーリーを知ることも大事なことであって、その後のストーリーには、ロータリークラブからの支援が生かされていることもあると嬉しく思います。

「ハゲワシと少女」を撮影した、カメラマンの撮影の前後のストーリーは、検索すると知る事ができます。興味を持った方は、ぜひググってみてください。

本文横書き 20 ページ

◆祝！創立100周年

日本で2番目に創立をした大阪ロータリークラブ

創立100周年記念式典・祝賀会が盛大に開催されました。

国際色豊かな式典でとても華やかに紙面を飾っています。

本文横書き34ページ

◆地区大会略報Ⅲ

昨年11月5日・6日に開催した、第2600地区・地区大会が紹介されています。

本文縦書き9ページ

◆この人訪ねて

奈良ロータリークラブ

菊一文殊四郎包永 代表取締役社長 柳澤育代さん

ニューヨークに留学をした時に、知り合った日本人医師の方とご結婚をして、その後、渡米し20年間現地で暮らしています。その間、アメリカで家業の現地法人を立ち上げ、日本国内の販売数と肩を並べるまでに売り上げを伸ばしております。アメリカ在住時、ニュージャージー州イングルウッド・ロータリークラブに入会をされており、初の日本人会員でクラブの会長も経験されています。

その他、多くのロータリークラブでの活動が掲載、紹介されています。

本日紹介した記事について、より詳しい内容は『ロータリーの友』をご覧ください。

【幹事報告】

櫻井雅文 幹事

1. 米山奨学会
ハイライトよねやま275号
2. 地区事務所
シンガポール航空・メルボルン国際
大会限定割引(5%)のご案内
地区諮問委員会委員委嘱状 島田甲子雄さん
3. 上田市役所
上田市名誉市民 金子宏氏 上田市葬についてご案内
4. 例会変更
小諸RC 3月22日(木) 定受なし
小諸浅間RC 3月2日(木) 定受なし
23日(木) 定受なし
30日(木) 定受なし
5. 会報恵送 飯田南RC、上田西RC



【ニコニコBOX】

宮川 泰 副委員長

石井懋人さん 出田行徳さん 伊藤典夫さん 小幡晃大さん 織英子さん 金子良夫さん 上島孝雄さん 窪田秀徳さん 桑原茂実さん 小山宏幸さん 酒巻弘さん 関啓治さん 滝沢秀一さん 高橋鼓さん 田中克明さん 田邊利江子さん 田原謙治さん 林秀樹さん 矢島康夫さん 柳澤日出男さん 横沢泰男さん 保科茂久さん



本日喜投額 22名 ￥ 26,000
累計 ￥1,314,500

【例会の記録】

司会：小山宏幸 会場・出席委員長

斉唱：ロータリーソング「四季の歌 冬」

- 地区事務所より委嘱状
- 会員卓話
- 『ロータリーの友』紹介
- 会長挨拶
- 幹事報告

【ラッキー賞】

高橋 鼓さん(出田行徳さんより、ハツ橋・きつねせんべい)

金子良夫さん(米津仁志さんより、太郎吉パン)



【出席報告】

小山宏幸 委員長



	本日	前々回 (2/6)
会 員 数	57	57
出席 ベース	53	54
出席 者 数	38 コロナ欠席2	42
出席 免除(b) ()内は出席者数	6(2)	6(3)
出席 免除(a)	0	0
メイクアップ ()内は Make up 後		2(44) コロナ欠席2
出 席 率	75.47	85.19

【本日のメニュー】

●かつ丼 ●香の物 ●味噌汁(えのき・長葱)



【次回例会予定】

3月13日(月) ゲストスピーチ

(株)そろそろ 代表取締役 石畠吉一さん

(3月6日発行)

【会報担当】 木内孝信 会報委員